

沖縄県知事
翁長 雄志 殿

宜野湾市長 佐喜眞 淳

普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還の実現に向けた
県政の最重要課題としての取り組みについて（再要請）

貴職におかれましては、本市はもとより沖縄県における基地に関する諸問題の解決に向け、ご尽力されていることに敬意を表します。

貴職が沖縄県知事に就任された平成 26 年 12 月以降、これまで幾度となく、普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還と返還までの危険性除去及び負担軽減について、貴職に対し、県政の再重要課題として取り組んでいただくよう要請してまいりました。

しかしながら、政府と沖縄県の間で、移設先を巡る意見の違いから対立が続くなど、その道筋は依然として不透明となっており、市民が持つ基地固定化への懸念は日に日に高まるばかりであります。そのような中、県政の最重要課題としての普天間への取り組みは、この間なかなか見えず、強い危機感を持っております。

長年、市民は、普天間飛行場が、まちの真ん中にあるがゆえに生じる墜落の危険性に加え、騒音被害や慢性的な交通渋滞など経済的・生活面・精神的にも多大な犠牲を強いられてきました。市民の共通した声は、普天間飛行場の現状については「これ以上我慢できない」「固定化は絶対にあってはならない」という切実な訴えであります。

このような市民の切実な訴えが置き去りにされる中、昨今の現象として、普天間飛行場返還問題について、普天間飛行場で実際に起こっている問題にはあまり目を向けること無く、いつの間にか移設先の問題だけを議論する傾向があることについては、本市として、由々しき事態であると認識しており、重大な危惧を覚えるものであります。

言うまでもなく、20 年前の返還合意の原点は、本市のど真ん中に存在し、「世界一危険な基地」といわれる普天間飛行場を抱える宜野湾市民及び周辺住民の「早急な危険性除去と基地負担軽減」を最優先に図ることであり、それは、まさに人命に関わり、真っ先に解決されるべき問題であります。

県民の生命・財産を預かる立場の沖縄県知事として、市民が抱える長年の苦悩や現在も続く夜間騒音をはじめとする厳しい基地負担の現状について、理解をしていただき、その抜本的な解決を図るべく、県政の最重要課題として、普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還へ向け最優先の取り組みを行っていただくとともに、5 年以内の運用停止をはじめとする返還までの間の危険性除去及び負担軽減の実現に向け、目に見える形で取り組んでいただきますよう改めて強く要請いたします。

さらに、普天間飛行場の返還後を見据えた上で、沖縄県の未来を担う子ども達のために、跡地利用についても積極的に取り組んでいただきますよう重ねて要請いたします。